

事業の名称

常陸大宮市民みんなが主役 「音楽による」まちづくりプロジェクト

〔事業責任者〕

事業テーマ：地域の教育力向上
自治体との連携
学術文化の推進

(自治体等側)
常陸大宮市・市民協働課・課長 金子 正平
(大学側)
人文学部・教授 西野由希子

連携先

常陸大宮市市民協働課
常陸大宮市まちづくりネットワーク

プロジェクト参加者

倉田 稔之 (常陸大宮市まちづくりネットワーク
代表, ウダーベ音楽祭実行委員会代
表)
西村 和也 (常陸大宮市まちづくりネットワーク
事務局, ウダーベ音楽祭実行委員会
事務局)
平島 慎吾 (ミュージシャン, 本プロジェクト音
楽指導・講師)
常陸大宮市まちづくりネットワーク・ウダーベ音
楽祭実行委員会
茨城大学人文学部 (地域課題の総合的探求プログ
ラム) 受講学生

プロジェクトの実施概要

①プロジェクトの目的

常陸大宮市では、まちづくり団体や個人が登録・参加している「常陸大宮市まちづくりネットワーク」を中心に、市民が中心になって、これまでも、さまざまなまちづくりの活動を展開してきた。

2015年には、廃校になった学校も含めて地域の小学校すべての校歌を、子どもから高齢の方までみんなで歌おうという「ウダーベ音楽祭」を企画して、地域の人々のつながりが強まり、楽しい

企画だったと好評だった。また、2016年の5月には「川原の音楽会」という新しい音楽会の開催準備も進んでいる。

本プロジェクトは、このような、市民が企画し、市民が実行委員となって運営するまちづくり活動を支援することを目的とし、「音楽」によって多くの市民がつながり、運営や出演などさまざまな面で市民が「主役」になるまちづくりを推進する。

今後さらに多くの市民が、企画、運営、広報など、音楽に関するプロジェクトの企画や運営に関わり、「音楽による」まちづくりの中心になっていけるよう、「人材育成」のための「音楽講座」なども開講する。

②連携の方法及び具体的な活動計画

当市出身の音楽家に依頼し、専門家を講師に招いての市民むけ「講座」を実施する。音楽理論等の知識、演奏等の技術、音楽会の運営・サポート・広報活動のための知識が身につくような内容の「音楽講座」と、映像作成や発信の技術などを学ぶ講座などを実施する。講座の企画と運営そのものも市民が担う。大学は企画や広報等に協力する。

10月中旬「第2回 ウダーベ音楽祭」を開催。実施に向けての準備、広報、当日の運営を市民による実行委員で進める。この企画を教養科目「地域課題入門」と連携させ、学生が実行委員の方たちと一っしょに企画を考え、運営や実行に協力する。

以上の経過や得られた成果については、2016年3月に予定している「常陸大宮市まちづくりネットワーク大会」で報告、発表し、翌年度の活動につなげる。

③期待される成果

本プロジェクトを進めることにより、今後、常陸大宮市の市民が中心になってまちづくりのさまざまな活動を企画、運営、広報等行う際の技術の向上や、ステップアップがはかれると考えている。

また、今年度の成果を「常陸大宮市まちづくりネットワーク大会」で報告し、整理、共有して、2016年5月に開催される「第2回 川原の音楽会」、2016年10月の「第3回 ウダーベ音楽祭」へとつなげる。

多くの市民が実行委員となり、企画、実施、講座による研修などを継続していくことで、市民が主体の「まちづくり」活動、常陸大宮市の魅力を高める企画の広がりや継続を図ることが可能になる。

プロジェクトの実施成果

①活動実績

本プロジェクトは、2014年10月に開催した「第1回 ウダーベ音楽祭」、2015年5月の「第1回 川原の音楽会」を受けて開始している。

2015年10月18日（日）の「第2回 ウダーベ音楽祭」に向けて、市民による実行委員会を開催。計8回の実行委員会を行って、準備を進めた。また、全体的、総合的に、音楽についての知識を向上させ、実行委員として実働にあたっていく人材の育成をはかるための「音楽講座」を3回にわたって開催。常陸大宮市出身のプロの音楽家が講師となり、本人および、毎回、ゲストとして招聘したプロのミュージシャンが実際の演奏も行い、それらを使いながら講習を行った。

茨城大学の学生との連携という面では、8月から9月に開講した集中講義「地域課題入門」において、「ウダーベ音楽祭」を学生への課題と



当日の「給食カフェ」。
学生たちがお手伝いしている様子



小学校・中学校の校区ごとに舞台にあがって
「校歌」を合唱



舞台への出場に合わせてロビーに集まる市民

し、そこで出されたアイデアを活用して「給食カフェ」の企画が決まった。

10月18日の当日は、提案を行った学生たちの中から、約10人の学生が会場でお手伝いをし、「音楽祭」を盛り上げると共に、市民が主体となってまちづくりを進めている様子や、「ウダーベ音楽祭」に出演する市民が、地区ごとに集まり、子どもから高齢の方までが「校歌の練習」ということで、この企画をきっかけにして交流や懇親を深めていること、このような活動が、地域の活性化につながることを学んだ。



市民による実行委員会が当日のさまざまな役割を分担して企画を実施した

「ウダーベ音楽祭」は、校歌を歌う「うまさ」を競うものではなく、観客数や来場者数が多ければよいというものではない。

小学校や中学校が地域の中核となってきたこれまでの各地域の歴史をふまえ、それぞれの地域でのまとまり、つながりの大切さを改めて見直すこと。校歌の練習ということで地域ごとに集まり、話し合い、世代を越えたつながりを築きなおすこと、廃校になってしまった小学校や中学校の歴史をあらためて確認し、「閉校記念誌」などでは拾いきれなかったエピソード、地域の習慣や「記憶」を、今、記録していくことなどが目的である。

2014年度は、小学校38校（うち閉校になった学校は27校）、2015年度は小学校と中学校あわせて58校の校歌が歌われた。2014年度は約800人、2015年度は約1000人が常陸大宮市文化センターロゼホール大ホールの舞台にあがった。

また「ウダーベ音楽祭実行委員会」の下に置かれた「編集委員会」は、地域の方たちに集まっていただいて、学校時代のエピソードをうかがう「取材」を行い、全ての中学校の基礎データ、校歌の楽譜・歌詞と共に、そのような取材によって集めたエピソードを収録した冊子を刊行。2014年度の冊子と合わせて、市民の大切な記録集の役割を担うものとなっている。

実行委員会は、2016年2月28日（日）に開催された「常陸大宮市まちづくりネットワーク大会」でまとめの報告を行い、2016年度は、組み

立て・公演が行われる「西塩子の回り舞台」の舞台を借りるような形で、2016年度らしい「ウダーベ音楽祭」として実施することを提案して、全体の賛同を得、承認されている。



「まちづくりネットワーク大会」
（口頭での報告のほかに会場内でパネル展示も行った）

②プロジェクトの達成状況

本プロジェクトで計画していた内容については、「講座」による実行委員の人材育成、大学や学生とも連携した企画の推進・実行、翌年度への発展的な継続性など、すべて実現している。

また、記録や広報の技術の向上のために、本プロジェクトの実行委員会メンバーによる自主企画として、「広報」の講座、「写真」の講座、「デザイン」の講座が開催され、毎回多くの市民が参加して、技術や能力の向上を図ると共に、意見交換や交流を深めた。

2016年度は、5月に第2回の「川原の音楽会」、秋には、「西塩子の回り舞台」を活用した3回目の、そしてこれまでとは形式を変えた「ウダーベ音楽祭」を実施することにもなり、本プロジェクトの成果は十分に得られたと考える。

③今後の計画と課題

すでに述べたように、常陸大宮市の市民が「主役」になり、主体となつての「音楽」によるまちづくりは、2016年度の、「第2回 川原の音楽会」の実施、「第3回 ウダーベ音楽祭」の新しい形での企画など、今後に向けてさらなる展開が期待

されるところである。

また、「常陸大宮市まちづくりネットワーク」で取り組んでいる「常陸大宮市の魅力発見ツアー」との連動や、「地域案内人」の活動などによって、さらなる広がりのあるまちづくり活動が、動きはじめている。

常陸大宮市では、2016年4月に、市としてははじめての「地域おこし協力隊」が4名採用され、まちづくりの活動に新しい試みをはじめているほか、こちらも市になってはじめての「市史編さん」事業もスタートする。

現在、市が掲げる「郷育立市」のスローガンのもと、地域の文化、歴史、伝統、産業などを活かしたまちづくりが、より積極的に進められようとしており、2016年3月にオープンした「道の駅常陸大宮 かわプラザ」を市のPRに活かしていくことも重要な課題である。こういった動きを背景に、市、市民、大学、民間など、多様なセクターが協働でまちづくりに取り組むことがこれからますます進むことになる。常陸大宮市の「市民が主役」のまちづくりに、大学も引き続き、協力して行きたい。